



国土交通省

NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和6年5月30日

内航船員の確保・育成対策 水産系高校にて職業講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、令和6年5月15日（水）に京都府立海洋高等学校において、海運における労働環境などを理解してもらうため職業講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日及び場所：令和6年5月15日（水）京都府立海洋高等学校

受講生：海洋工学科 航海船舶コース 2年生 12名

講師：近畿内航船員対策協議会 特別顧問 上窪 良和 氏

講義内容：『船員の仕事、資格取得のための進路等』

配布パンフレット等：

- ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）



<https://c2sea.jp>



配布先：海運関係業界プレス

水産系高校にて職業講座を実施しました

～内航船員の仕事と就労実態を紹介～

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本 一人 三興海運(株)代表取締役）では、5月15日（水）に京都府立海洋高等学校（宮津市）において、近畿内航船員対策協議会 上窪 良和特別顧問を講師として内航船員に関する職業講座を実施しました。

これは、船員の供給ソースとして徐々に増加傾向にある水産系高校の生徒を対象に、若年内航船員確保推進の観点から、さらに多くの生徒に内航船員の労働環境などを理解してもらうことを主な目的として実施しているものです。

当日は、海洋工学科航海船舶コース2年生12名が参加しました。

講義にあたり、まずは上窪特別顧問が監修に携わったDVD「海を駆ける若者たち」（日本内航海運組合総連合会）を視聴することで現場のイメージをつかんでもらい、内航船員としての働き方の理解を促しました。

京都府立海洋高等学校は船舶職員養成施設であるため、海技知識を有し、かつ、内航船員を目指す生徒も多くいることから、内航船員に重点を置いた講義内容を行うことで、就職活動をする際の参考となる情報や、特殊な労働環境である内航船員という仕事を理解してもらい、ギャップの解消に努めました。



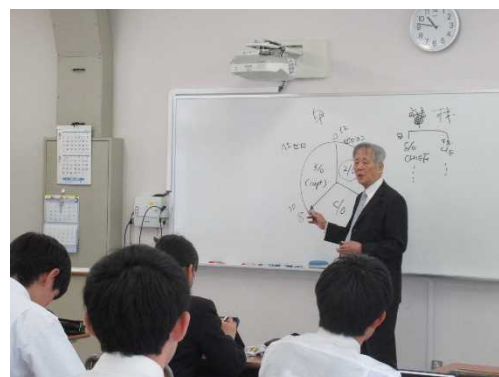
まず、海運業を外航海運と内航海運に分けて、それぞれの業界における船員雇用の現状から講演を始めました。外航海運に就職した場合は、多数を占める外国人船員を監督する立場や英語力などの能力が求められるが、内航海運は日本人船員のみが担うこととなっているので、そういった心配は無いことなどを伝えました。

次に、内航船員となるために必要となる海技免状について、現在の資格制度と、各資格に対応する乗船可能な船舶を説明して、内航船員を目指す場合は4級の海技免状を取得することが最適であることを伝えました。

続いて、実際に内航海運会社に採用されて、乗船することとなった際の仕事内容、休暇や給料等、船員の待遇面について話をしました。

まず、甲板部の仕事のひとつである航海当直については、当直員数の区切りである700トンを境にケースを分け、当直基準について、甲板部では4時間ごとに交替して当直する3直制であることに対して、機関部では非常警報装置により常時当直ではなくなっていることなど、それぞれの役割を伝えました。

次に待遇面については、3ヶ月乗船・1ヶ月休暇のサイクルが基本的な就労形態となっていること、船員の最低賃金は時間給ではなく、月額で定められていること



や、その他乗船手当等により、見習い船員であっても他産業と比べて年収が高いこと、居住地域の制限が無いこと、資格と経験があれば転職が容易であることなど、陸上産業従事者とは異なる点を中心に説明しました。

生徒たちへのメッセージとして、どのような会社でも入社当初は部員として雇用されるが、入社後の努力次第によって職員にステップアップできること、早く昇進するためには責任感や周囲からの信頼が必須であることを伝えました。また、部員のうちに上司の仕事を覚えるような努力を積み重ねることで、責任感が身につき信頼を得ることにつながるなど、船員という業界に入る覚悟だけではなく、入ってからも継続した努力と向上心が必要であることを、生徒たちに理解するよう促しました。生徒たちも船員という職業に本当に自分が向いているのかどうか、真剣に考える良い機会になったと思います。

最後に、働き手を確保するため、業界全体として乗船サイクルの短縮などの働き方改革に取り組んでいることを紹介するとともに、船の運航を任されることはやりがいのある仕事であることを伝えました。



講義後の質問では、「海運会社で働く際に有利な資格はどのようなものがあるか」「就職面接ではどのようなことを聞かれるか」という就職を意識した質問から、「仕事に対するモチベーションはなにか」「航行中に家族と連絡が取れるか」「船上の生活で1番辛かったことはなにか」「船の上の食事はどんなものがあるのか」という生徒が船員として就職することを見据えた質問もあり、それぞれに対して丁寧に回答しました。

参加した生徒からは、「将来は自分も日本の経済を回す側になる仕事に就きたい」「今後は資格をしっかりと取って内航で働くという夢を叶えたい」「本日学んだことをこれからの学習、実習にも活かしていきたい」と感想があり、生徒にとって今後の進路を考える有意義な職業講座となりました。

水産系高校生が内航船員への関心も増えていることから、若年内航船員の確保において、効果的な取り組みである職業講座を引き続き実施していきたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)